

課題修正、僅差しのぐ

美東

春の全国中学生大会女子の覇者・美東がライバルの仲西との決勝戦を1点差で制し、県上位での九州大会出場を決めた。シーズンゲームの中でも、追う展開が続き苦しんだが、最後まで諦めなかった。終了まで残り13秒、試合通じて初めて仲西をリードし、そのまま勝利をもぎ取った。

前半は積極的な守備を敷いた仲西が試合の流れを掌握する。美東は司令塔・金城菜々子らの動きが封じられて思い通りのシュートが打てず、逆にミスを速攻につなげられ失点を重ねた。

美東の動きが変わったのは後半。ハーフタイムで確認した守備とゴールキーパー（比嘉楓主将）の動きの連係を実践することで守りのリズムをつかみ、金城と周囲が連動して崩す攻めの形がcaみ合い始める。

対応に苦慮していた仲西の2人の左利き選手にマンマークディフェンスを敷いたことも奏功し、試合を五分に戻し、その後は仲西が先行する形で1点を争う攻防に移る。「焦らないのが大事だ」（比嘉主将）。選手たちの我慢が終了直前の逃げ切りにつながった。

平良徳彦監督は「九州、全国を狙っているのに特に指示は出さなかった。それぞれの選手が積極的にできることをしたのが優勝につながったと思う」と選手自身が問題を修正し、接戦を制した場面をたたえた。

一方で、チームの目標は春・夏の全国2冠。比嘉主将は「全員でチームをレベルアップさせて、九州・全国に挑みたい」と前を見据えた。

ハイライト
美東の動きが変わったのは後半。ハーフタイムで確認した守備とゴールキーパー（比嘉楓主将）の動きの連係を実践することで守りのリズムをつかみ、金城と周囲が連動して崩す攻めの形がcaみ合い始める。

春の全国中学生大会女子の覇者・美東がライバルの仲西との決勝戦を1点差で制し、県上位での九州大会出場を決めた。シーズンゲームの中でも、追う展開が続き苦しんだが、最後まで諦めなかった。終了まで残り13秒、試合通じて初めて仲西をリードし、そのまま勝利をもぎ取った。

前半は積極的な守備を敷いた仲西が試合の流れを掌握する。美東は司令塔・金城菜々子らの動きが封じられて思い通りのシュートが打てず、逆にミスを速攻につなげられ失点を重ねた。

（大嶺雅俊）



女子決勝 美東一仲西 速攻からシュートを決める美東の上間望愛
=25日、石垣市総合体育館（大嶺雅俊撮影）

美東 (女子)



神森 (男子)

中学総体

2018

8 競技
熱戦展開

見城市民体育館で行ったバレーボールは男子の与勝、女子の与那原が頂点に立った。那覇市の奥武山運動公園庭球場で行ったテニスには女子ダブルスで琉大付の比嘉美徳・新城英方組、男子ダブルスには北谷の呉屋凱斗・島袋紘也組が栄冠をつかんだ。

美東	32	1616	66	12	神
神森	36	1224	99	18	仲
仲西	25	169	911	20	浦
神森	34	1915	83	11	宮
					西
					里

春の王者が圧倒 神森



男子決勝 神森一仲西 ディフェンスの上からシュートを決める神森の安里健伸



女子優勝の美東中のメンバー



男子優勝の神森中学校のメンバー

○春の全国中学生選手権大会で日本一に輝いた神森男子が前評判通りの力を見せつけ、圧巻の試合運びで県大会を制した。

準決勝までの全試合をダブルスコアの大差をつけ、迎えた仲西との決勝。堅守・速攻というチームの理想とする形が試合序盤から発揮された。

得点源となる仲西の両バックに守備で重圧を掛けてミスを誘い、速攻を重ねた結果、前半10分までで11-1と圧倒した。

その後も主導権を手放すことはなく、キーパーを除く全選手が得点を決め、決定的な形が試合序盤から発揮された。

県内敵なしを印象づけた神森だが、目標は春に続く全国制覇。伊禮颯雅主将は「シュートを外す場面も結構あった。一人一人のディフェンスの強さとシュート力をもう少し上げて、九州大会に臨みたい」と力を込めた。

八ハンドボール (石垣市総合体育館)
仲西 30 1515 38 11 西原
美東 19 145 810 18 仲西